

令和2年度第1回鎌倉市立学校教職員安全衛生協議会 議事録

日時：令和2年7月28日（火）15時00分～16時45分

場所：鎌倉商工会議所3階 301会議室

出席者：佐々木部長（会長）、露木次長（副会長）、小日山校長、池田校長、山里教頭、林教頭、伊藤教諭、伏見教諭、事務局（中尾課長、池田補佐、花村係長）自己紹介

1 開会あいさつ（会長）

学校現場においては、コロナ禍による休校が続き、子供たちとようやく接することができたと思うが、本協議会もその関係で開催が遅れてしまった。本協議会は皆さんでより良い方向を協議して進めていきたいと思っているので、建設的なご意見等を頂戴しながら進め、各学校における衛生懇談会や今回の安全衛生協議会において、実効性のある職場環境改善に向けた検討を行ってきたい。

2 協議会委員紹介（委員の変更なし）

3 報告事項

(1) 鎌倉市学校職場環境改善プラン進捗状況について（事務局）

平成31年度（令和元年度）実績については、前回の協議会でも報告したが、再度確認を行う。

中学校では校務支援システムによる出退勤管理、小学校ではパソコンによる出退勤管理の実施や、部活動休養日の設定、学校施設改修及び冷暖房設備設置工事等を実施したほか、鎌倉市立学校教職員安全衛生協議会の開催、事務職員の学校運営への積極的な参画について事務部会との意見交換、たたき台の作成等を実施及び事務職員の所掌に関する管理運営規則の一部改正を行った。

コロナ禍により、今後の予算執行は未確定な部分があるが、プランに沿って事業を実施しながら効果検証等を行い、内容の見直しも含め実効性のある職場環境改善に向けた検討を行う。

<会長から補足>

- ・コロナ対策について、優先的に予算を確保し、執行されている状況であり、プランに関する予算執行が先送りとなる可能性があることはご了承いただきたい。

<意見交換>

- ・学校閉校日については、今後も年休対応となるのか？管理運営規則等の改正による新たな休暇の可能性はないのか？

⇒県内全域で閉校日の取組を行っているわけではないので、現時点では難しい。

(2) 教職員の勤務実態調査結果について（事務局）

本年6月に実施した教職員の勤務実態調査の結果をもとに、平成29年度の結果との比較を抜粋した。新型コロナウイルス感染拡大防止による休校の影響を避けるため、本年1～2月の状況を回答したもの。配付数は578枚、回答数は555枚で、回答率は96.0%だった。

- ・平均的な出勤時刻については、ほぼすべての職種において出勤時間が遅くなった。
- ・休憩時間の過ごし方については、すべての職種において仕事のみと回答した割合が低下し、休憩をとれるようになった。
- ・平均的な退勤時刻については、すべての職種において早くなった。過労死ラインと言われる月80時間以上の時間外勤務にあたる4時間以上時間外勤務者の割合は確実に減少した。
- ・自宅での業務に関しては、多くの職種で増加した。退勤時刻が早い分、しわよせが来ていると思われるが、国の指針では、持ち帰り業務の実態把握に努め、縮減に向けた取組を進めることとしているため、今後の課題である。
- ・勤務を要しない日の出勤及び勤務を要しない日の自宅業務時間については、小学校と中学校、また職種で差が出ている。中学校については、出勤日数が減少、小学校では教頭と総括教諭が増加傾向である。
- ・勤務を要しない日の自宅での業務時間については、小・中でやや増加している。
- ・休暇の取得状況については、小学校・中学校ともにほとんどの職種で「とれている・まあま

あとれている」の割合が増加しているが、教頭は「とれていない」が増加した。

- ・部活動の活動時間や活動日数については、ガイドライン策定により時間的な負担が減少した。
- ・今回の調査の結果、平成 29 年度の職場環境に比べ、教職員の負担はおおむね軽減されていることが読み取れた。
- ・自由記述の中では多くの意見が出されているが働き方改革の意識が浸透した結果と思われる。

<意見交換>

- ・出勤時刻及び退勤時刻については、比較すべき時期が違っているため、差が大きいと思う。今回はコロナ禍の影響でやむを得ないが、次回は、同時期での調査をすべきである。部活動については、ほぼ正しく反映されていると思う。
⇒前回の 6 月と今回の 1～2 月では、季節も違い、部活動も冬期は活動時間が少ないと思うので、やはり同時期に調査すべき。だいぶ改善はされているとは思いますが。
- ⇒この調査結果を公表する場合は、時期の違いを明確に記載すべきである。
- ・中学校では、校務支援システムの導入により、持ち帰り業務は格段に減少した。
- ・小学校では、早く帰らなければならない分、持ち帰り業務や、早朝に職場に来ざるを得ない。
⇒持ち帰り業務の増加は、早く帰らざるを得ない（育休明け等）職員が増加しているという状況であると推察できる。クロス集計などを行って、根本的な原因を探らないと、解決策が見えてこないのではないかな。
- ・校務支援システムを活用して効率的に業務を処理するための情報提供・交換を行ったり、給食の公会計化による教諭業務に専念できる環境づくりなど、学校にいる間の時間内に業務を終わらせる方策について、意識を向けていくことが大切だと考える。
- ・教育内容の質を落とさずに時間を減らすのであれば、市単位でも、人を増やすしかない。
- ・教頭会で、池田校長に校務支援システムの講習を行ってもらい、非常に作業が楽になった。短時間で効率的な作業ができるよう、個々の教員のスキルが上がるような取り組みを考えていく必要がある。
- ・調査の自由記述の中に、会議の運営の仕方に関する問題があるという意見があった。いかに時間を短くするかという取り組みがあれば、紹介いただきたい。
⇒職員会議・企画会議にかける前に、担当が原案をしっかりと作成する必要がある。「どうしましょう」提案をなくす。ペーパーレス化も効率的である。
- ・家庭への配付物等を、タブレットで見られるようデータで保存すれば、印刷の手間も省ける。

4 協議内容

(1) 教職員の職場環境における改善点及び課題の整理について

衛生懇談会は毎月 1 回実施し、実施後速やかに、「衛生懇談会実施報告書」を学務課教職員担当あてに提出することとなっているが、提出のない学校がある。職場環境改善の取組を進めるため、学校内での問題点を共有し、負担軽減の解決を図る場として衛生懇談会を活用していただきたい。

今回は 5 月に実施した衛生懇談会実施報告書をまとめているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため児童生徒が登校せず、感染防止対策や学校再開後の不安感について話し合われていることが多く、特に、健康管理や教職員間の情報共有について意識が高まっている。コロナ禍の中、教職員の精神的な負担が増大していると思われる。そのため、県教委ではスクール・サポート・スタッフや補助指導員、非常勤教諭等の配置を行っており、配置している学校で、教職員の負担軽減につながったということがあれば教えていただきたい。また、独自の工夫で教職員の負担軽減に努めている学校があれば、挙げてほしい。よい取組については協議会で取り上げ、全校に周知を図ることも検討したい。

<意見交換>

- ・機器を使いこなすための教育の必要性と、作業等や行事については本来の目的を考慮し、本当に必要なことのみ精選するなど、業務の見直しが大切。
- ・スクール・サポート・スタッフの配置は、配付物の印刷、採点など、非常に助かっている。継続してほしい。
- ・スクール・ロイヤルの配置があると、保護者等の対応について心強い。
⇒教諭の業務を担える配置の活用、勤務形態の変更についても、次回検討したい。

「(2) 鎌倉市学校職場環境改善プランⅡ(仮称)の策定について」については、次回に持ち越し。